

平成 23 年 12 月 8 日

12 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

○ 所長の横村でございます。

○ 東北地方太平洋沖地震の発生から 9 ヶ月が経とうとしています。

福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、引き続きご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。

まずは、福島第一原子力発電所の現況についてお伝えいたします。

原子炉の冷却につきましては、福島第一原子力発電所の 1～3 号機の原子炉压力容器底部における温度が 100℃以下で、他のパラメータも含め、安定的な冷却に向けて進んできております。

放射性物質の放出量の評価につきましては、事故当初に比べ約 1,300 万分の 1 となっており、これによる敷地境界の年間被ばく線量は最大で年間 0.1 ミリシーベルトと評価しており、事故の収束に向けて一つひとつの工事を着実に進めている状況です。

福島第一原子力発電所の事故に関しては、当社は、先週末に福島原子力事故調査報告書（中間報告書）を公表させていただきました。この報告書においては、福島第一原子力発電所の事故について、これまでに明らかになった事実や解析結果等に基づき原因を究明し、既存の原子力発電所の安全性向上のために必要な対策として「徹底した津波対策」「柔軟な対策による機能確保」「炉心損傷後の影響緩和策」の 3 つの対応方針を策定しております。

当発電所においては、今回の報告書でお示ししました 3 つの方針に基づく炉心損傷を未然に防止するための対策に順次取り組んできているところです。福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないようにしてまいります。

○ 次に、当発電所の状況についてです。

現在、当発電所の5号機と6号機につきましては、安全・安定運転を継続しております。

また、現在、定期検査中の1号機につきましては、先月末までにプラント停止中に予定していた作業をすべて終了いたしております。7号機につきましては、先月確認されましたディーゼル発電機の不具合に関する対応を進めており、もう少し時間がかかる見込みです。

一方、ストレステストにつきましては、1, 7号機を対象に一次評価を鋭意進めているところです。これと平行して、先月21日に国の指示に基づき、中越沖地震後に行った設備の耐震安全性評価の報告書について誤りがなかったかどうかを確認し、原子力安全・保安院へ報告をいたしました。ストレステストの地震に関する評価は、この耐震安全性評価がベースとなるため、今後、原子力安全・保安院にこの報告内容をご確認いただいた後、ストレステストの評価結果を取りまとめ、同院へご報告する予定です。その際には、お知らせさせていただきます。

○ 最後に津波対策の状況についてです。

1号機と7号機の定期検査にあわせて、代替海水熱交換器設備に関する工事や開閉所付近に設置した緊急用高圧配電盤から原子炉建屋内の非常用高圧配電盤への常設ケーブルの布設工事や、原子炉建屋トップベント設備の設置工事を進めてまいりました。先月皆さまにも現場を公開させていただき、多くの皆さまにご取材いただいておりますが、これらの工事につきましては先月末までに完了しております。

また、ガス・タービン発電機車や電源車、消防車など各種緊急車両の配備・導入に伴い、設置を計画しておりました軽油の地下タンクについて、現在、設置工事の準備を進めております。

ガス・タービン発電機車等の燃料は、災害発生後には発電所構内に設置されている耐震性の高い既存の軽油タンクから供給するとともに、速やかに関東圏及び地元の石油販売会社から大型タンクローリによる追加供給を確保する体制としております。

これらに加えて、海拔約35mの高台に新たに15万リットルの軽油の地下タンク

を設置することにより、ガス・タービン発電機等への燃料供給について、より迅速かつ安定的に供給することが可能となり、さらなる供給信頼性が確保されるものと考えております。

軽油の地下タンクについては、現在、詳細設計を進めており、今後、準備が整った段階で工事を開始し、来年5月下旬頃までの完成を目指しております。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX
プレス公表 (運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成23年12月)

平成23年12月8日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4~H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定検による停止!												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止!												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止!												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止!												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	運転中	第12回 H18.11.24~H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)													
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第9回 H22.10.31~H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	!第9回定検による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18~H22.7.23 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定検による停止!												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (11月末現在)

11月	30.6%
23年度累計	47.3%
運転開始後累計	64.0%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (11月末現在)

11月	181,093
23年度累計	2,272,558
運転開始後累計	86,953,252

④ ドラム缶発生量(本) (H23年度第2四半期)

当期発生本数	332
貯蔵庫累積貯蔵本数	32,615
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H23年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,336
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (12月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	943	2,567	53%
	刈羽村	94	236	5%
	その他	111	998	17%
	小計	1,148	3,801	75%
県外		85	1,571	25%
合計		1,233	5,372	-
		6,605		100%
協力企業社数(社)		795		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (11月末現在)

	11月	年度累計
地元	943	8,975
県内	1,098	12,124
県外	1,178	11,443
国外	73	167
合計	3,292	32,709

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
平成24年1月12日	次回定例所長会見予定

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成23年12月8日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	11月7日	7号機	定期検査中における非常用ディーゼル発電機の弁の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況）定期検査中の7号機において、非常用ディーゼル発電機*1（B）の潤滑油調圧弁*2の分解点検の一環として、当該弁の弁箱内側について浸透探傷試験を実施したところ、平成23年11月4日に複数の微細な孔のような指示模様を確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 今回の不具合については、非常用ディーゼル発電機の機能に影響を与えるものではなく、当該の非常用ディーゼル発電機は直近に実施した定例の運転確認試験においても機能が正常であることを確認しております。また、今回の点検の実施にあたっては、他の2台の非常用ディーゼル発電機について機能に問題がないことを確認しており、プラントの安全上の問題はございません。本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 今後、当該弁について詳細な状況確認や原因調査を行うとともに、当該弁の補修作業を実施いたします。</p>
②	12月2日	2号機	ジェットポンプ流量計測用配管の切損に関する調査結果について（区分Ⅲ：続報）	<p>（事象の発生状況） 平成22年3月12日午前1時40分頃、定期検査中の2号機において、炉心シュラウド予防保全対策工事施工後に水中カメラによる目視点検を実施していたところ、20台あるジェットポンプのうち1台について、流量計測用配管（外径約14mm、肉厚約2mm）の1本が切損していることを確認しました。</p> <p>なお、当該切損箇所を含めた全ての流量計測用配管について、水中カメラによる目視点検を行っており、当該配管以外の切損は確認されておりません。</p> <p>また、当該切損箇所については、平成19年11月に実施した新潟県中越沖地震後の点検、平成22年2月に行った炉心シュラウド予防保全対策工事施工前の点検で、異常がないことを確認しており、新潟県中越沖地震により切損したものでありません。</p> <p>（安全性、外部への影響） 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 原因調査の結果、当該配管がプラントの起動・停止に伴う原子炉再循環系ポンプの水圧の変化や、ジェットポンプの振動と共振して疲労によるひびが発生・進展し、その後炉心シュラウド予防保全対策工事を行った際の振動により最終的に切損に至ったものと推定しました。現在、流量計測配管の当該切損部周辺を、配管スリーブで接続する補修を実施しております。また、再発防止対策として、2号機のジェットポンプ流量計測配管のうち、配管サポートが他のプラントとは異なる位置に取り付けられており、今回の切損部と同様に共振が発生する可能性があるかと評価した全15箇所について、切損防止のための補強機器を設置することといたします。</p>
③	12月5日	4号機	海水熱交換器建屋（非管理区域）におけるけが人の発生について（区分Ⅳ）	—